

Today for Tomorrow

住宅情報専門誌

# Housing Tribune

ハウジング

トリビュン

2009年 7月14日  
2009.07.15

vol.351

定価 810円(税別)  
http://www.housingtribune.com

耐震診断、安心リフォーム、エコリフォーム、  
地域産材活用、太陽光発電など

## 地域に芽生える 家づくりネットワーク

2009年7月14日発行 2009年7月15日発売  
発行所 国土交通省 国土院 住宅政策課 住宅情報センター

ハウジング・ナビ  
編集 国土院 住宅政策課

編集・発行 国土院 住宅政策課 住宅情報センター  
〒100-8302 東京都千代田区千代田 4-1-1

〒100-8302 東京都千代田区千代田 4-1-1

2009年7月14日発行 2009年7月15日発売  
発行所 国土交通省 国土院 住宅政策課 住宅情報センター

編集・発行 国土院 住宅政策課 住宅情報センター  
〒100-8302 東京都千代田区千代田 4-1-1



# マンション向け家庭園芸 サービスを事業化

## 利用者として生産者のリレー栽培を実現

屋上・壁面などの建築緑化から植物の生産・レンタル・卸業まで、緑化事業を幅広く展開するプラネット（大林修一社長）は、菜園を核にしたマンション向けの家庭園芸ビジネスに乗り出す。専用Webサイトなどを通じた全面的なサポート体制を敷くことで初心者でも安心して楽しめるサービスを目指しており、使用後の部材をリユースすることで環境面にも配慮する。



ソーラーパネル等の電源でプランター内の水を循環させる

同サービスの売りはなんとといってもその手軽さにある。利用者はベランダの手すりに専用のプランターを設置し、同社から届くポット苗をセットするだけ。しかも、専用農場で育成された半製品の状態で提供されるので、用土の配合や種まき、間引きなどの作業はほとんど不要、初心者でも気軽に家庭園芸に取り組める。ポット苗は年間計画に基づき、季節に合わせた旬のものが届く仕組みで、いわば利用者と生産者のリレー栽培の形をとる。

プランターはパイプ状でソーラーパネル等の電源を使って水が循環するようになっている。横幅1メートルほどで、1つのプランターに5鉢設置でき、2段で構成されている。栽培方法は水管理が楽なハイドロカルチャー（水耕栽培）で、鉢底に溜めた水を下から吸い上げる底面給水システムを採用、水位計で水管理を容易にした。灌水時に水が外に流れ出ることがなく、土も出ないのでベランダの排水孔を詰まらせる心配もない。ポットごと室内に持ち込めば、インドアグリーンとしても楽しめる。

専用のWEBサイトでは、利用者と生産者の交流の場として、生産農場の様子をネットカメラやメルマガを通じて紹介するほか、栽培管理のアドバイス、商品等の情報提供を行う。

とくに注力するのが、食の安全などを背景に需要が高まっている家庭菜園の分野。パプリカ、ゴーヤ、ねぎ、サニーレタスなどの野菜からハーブ類まで、多種取り揃えている。

料金については、苗や部材を売るのではなく、あくまでひとつのサービスとして、苗の種類や数、交換頻度に応じた月額3000円から5000円程度の料金体系を設定する。

「園芸は自分で一からはじめてもらうまいかなことが多い。無理せず、通年楽しめるものにしたことに意義が

ある。このサービスを通じて、住民同士の「コミュニティ」も形成されるのでは」（大林社長）としている。

## リユース・リデュースで環境配慮

同サービスでさらに注目できるのは、環境への徹底した配慮だ。

植込材料に用いる「レカトン」は、粘土を高温で焼成した粒状の発泡煉石で品質の劣化がなく、何度も再利用できるのが特徴。ポットも再利用を可能としており、これらは栽培が終わった段階で同社が回収、生産者のもとに返却し、洗浄してリユースする。

「家庭から出るゴミは育成後の枯れた植物だけ。これも一般可燃ごみとして処分できるので、ゴミのリデュースにつながる」（同）。

また、夏場には、緑のカーテンとしての利用も推奨。ベランダに専用のポールとワイヤーを設置し、ツル性植物を採用すれば、日射を遮ることで冷房負荷を軽減するとともに、マンションの景観向上につながるとしている。

同サービスは戸建て住宅にも対応できるが、より需要の見込めるマンションをターゲットにしており、管理会社や管理組合などに導入を促していく。